

第207回
定例探鳥会

日時：2004年3月14日(日) 天候：晴れ
コース：高来神社 化粧坂 水道山 湘南平

今日は毎年恒例のレンジャク探しの市街地から湘南平に登る探鳥コースです。水道山ではやけに白く綺麗なシメの尾羽が見えたり(下からのアングルでか?)、アオジの群れが地上と枝先を行ったりきたりなど、冬にはあまり見られない行動を観察しました。レンジャクを探しながら市街地を探索しながら歩きましたが、残念ながらこちらには出会えませんでした。しかし、少し山側にある日本画家の加山邸近くの川ではルリビタキの、市街地から山に入る休憩地点ではマヒワ2羽も見ることが出来ました。湘南平のすぐ下の登山道ではヤマガラ2羽がいたのでしばらく観察していると、なぜかその周辺を離れず激しく鳴いていたのでおかしいなと見ていたら、番で1羽が樹洞に入り込みました。巣があったようで早々にその場を立ち去りました。湘南平ではウソの1羽、2羽を観察でき感激。おまけに解散後にはヒレンジャク3羽を観察が出来満足、満足な1日でした。

参加者

参加人数 41名(敬称略)

- | | | | | |
|-------------|--------------|-------------|--------------|-------------|
| 1. 鈴木 逸子 | 2. 八木 正 | 3. 岩崎 泰 | 4. 岩崎 秀美 | 5. 矢内 寿美子 |
| 6. 下倉 紘一 | 7. 山田 文則 | 8. 紺 龍彦 | 9. 南 那津子 | 10. 小野 肇 |
| 11. 鈴野 嘉久 | 12. 木田 ハマ | 13. 片倉 義人 | 14. 大坂 英樹 | 15. 柏村 修 |
| 16. 沢田 興三 | 17. 瀬尾 隆 | 18. 大谷 秋代 | 19. 大谷 道男 | 20. 吉田 宣子 |
| 21. 加藤 卓也 | 22. 平塚 津矢子 | 23. 松本 鈴子 | 24. 山下 勝司 | 25. 室野 義晴 |
| 26. 岩沢 登志子 | 27. 清水 哲子 | 28. 阿部 純一 | 29. 阿部 峰子 | 30. 上野 尚博 |
| 31. 吉尾 孝 | 32. 小谷 茂雄 | 33. 中村 豪夫 | 34. 富田 | 35. 高橋 徳江 |
| 36. (田端 裕) | 37. (西ヶ谷 修一) | 38. (岩佐 昌夫) | 39. (内山 規矩雄) | 40. (金子 典芳) |
| 41. (斎藤 常實) | | | | |

見聞きした鳥

種類数 31種(ドバトを含む)

- | | | | | |
|-----------------|-----------|------------|-------------|-------------|
| 1. トビ | 2. ノスリ | 3. コジュケイ | 4. キジバト | 5. (ドバト) |
| 6. ヒメアマツバメ | 7. アオゲラ | 8. コゲラ | 9. ハクセキレイ | 10. ヒヨドリ |
| 11. モズ | 12. ルリビタキ | 13. ジョウビタキ | 14. ツグミ | 15. ウグイス |
| 16. エナガ | 17. ヤマガラ | 18. シジウカラ | 19. メジロ | 20. ホオジロ |
| 21. アオジ | 22. カワラヒワ | 23. マヒワ | 24. ウソ | 25. シメ |
| 26. スズメ | 27. ムクドリ | 28. カケス | 29. ハシボソガラス | 30. ハシブトガラス |
| 31. ヒレンジャク(解散後) | | | | |

『アオバトのふしぎ』 発刊

「アオバト」といえば「こまたん」といわれるように、こまたんがアオバトに興味を持ち観察を始めてから約15年が経過しました。1992年には照ヶ崎での生態と丹沢から照ヶ崎への飛来コースを調査した結果が「大磯町照ヶ崎海岸におけるアオバトの生態」として、日本野鳥の会神奈川支部の野鳥ライブラリの第1号として出版されました。その後も観察は継続され、その結果をまとめたものが日本野鳥の会神奈川支部のBINOS誌に掲載されました(1996 Vol.3 アオバトの糞から検出された植物種子、2003 Vol.10 大磯町西部虫窪地区における冬季のアオバトの観察記録、2003 Vol.10 丹沢堂平におけるアオバトの繁殖記録)。

このようにしてアオバトの不思議な生態の謎解きに取り組んできた15年間の観察の様子が『アオバトのふしぎ』という本にまとめられて出版されます。単なる観察記録の羅列ではなく、こまたんが魅せられたアオバトの魅力、不思議な生態の謎解きへの挑戦などが楽しい読み物として掲載されています。以下に出版社エッチエスケーのパンフレットから、この本の内容を紹介します。



それは大磯の照ヶ崎から始まった・・・

波に飲み込まれ次々に溺死したアオバト
こんな危険を冒してまでなぜ海水を飲みに来るのか
この疑問がすべての始まりだった
その時から15年以上に渡って
次々に生まれるアオバトの謎や疑問を
アオバト探検隊の面々は地道にかつ楽しみながら
一つ一つ解き明かしていく
多くの人たちが長い年月をかけて行った
アオバトの調査の過程と結果がこの一冊に凝縮された
アオバトに魅せられた人々の想いと喜びが
読む人の心に素直に伝わってくる

目次から

第一章 アオバト事始め 第二章 アオバトってどんな鳥？ 第三章 照ヶ崎のアオバト
第四章 アオバトが求めていたものは 第五章 アオバトの体を探る
第六章 リョコウバトの悲劇を繰り返すな 第七章 アオバトの繁殖生態
終章 アオバトの謎 調査へのお誘い 資料編

アオバトのふしぎ・・・ こまたん著 / エッチエスケー / 税込み ¥1,680

小出版社の発行なので多くの書店の店頭の本を置くことは不可能です。注文の際は上記の書名、著者名、出版社名とともに、「地方・小出版流通センター取り扱い品」であるという書店に申し込んでください。

本の詳しい内容は <http://homepage3.nifty.com.praonhsk/> をご覧ください。

高麗山の植物…その キブシ キブシ科

西ヶ谷 修一

早春、真っ先に咲き出し、結構目立つ花である。花が咲いてキブシの木を思い出すというくらい、花の咲かない冬には全く地味な木で忘れられている。……………

花序は、上の花から下に咲いてくように見えるが、実際は、垂れ下がっているのに、花序の基部から咲き上がっているのである。

雌雄異株で、雌株は雄株より総状花序が比較的短く、雄の淡黄色よりやや淡黄緑色である。雌花の中を見ると、玉のような子房に雌しべ(緑)1本がつきでている(雄しべは退化して短い)。雄花は、雄しべが8本(黄色い:葯という)が目立ち、真ん中に雄しべが1本(緑)ある。……

名は、「木付子」「木五倍子」と書かれることが多い。ウルシ科のヌルデについての虫こぶ(虫えい)(ヌルデノミフシ)を乾燥させたものを、五倍子・付子と呼び、タンニンの原料とする。このヌルデの五倍子の代用としてキブシの果実を黒色染料として使った。またこのタンニンをお歯黒にも使ったのである(昔、女性は結婚すると、歯を染める習慣があった)。…新聞の記事によると、藤のように思えるので木藤と書きキブシに転訛したものではないかと書かれていた。

神奈川県には、キブシ、コバノキブシ、エノシマキブシがあるが、キブシは神奈川県全域に、コバノキブシは丹沢周辺などで、やや乾いて岩っぽいところ、エノシマキブシは神奈川の南部・三浦半島や一部、大磯丘陵に見られる。コバノキブシは葉が小形で枝も細い。エノシマキブシはキブシより枝は太く花序はより長い。伊豆諸島に分布するハチジョウキブシとの雑種と考えられている。



アオバト講演会 … 第60回 サロン・ド・小田原(生命の星・地球博物館)

先月号で予告した「アオバト講演会」の詳しいことが分かりました。興味がある方のご来場をお待ちしています。どなたでも参加できます。申し込み不要。無料。

平成16年度一回目のサロン・ド・小田原のお知らせです。今回のサロン・ド・小田原は、今春『アオバトのふしぎ』(エッチエスケー)を出版された“こまたん”のみなさんに講演をお願いしました。

- 第60回 サロン・ド・小田原 『アオバトのふしぎ～なぜ海水をのみにくるのだろう』 ■
<講演> 話題提供：こまたん(大磯高麗山探鳥会グループ)

【題目】「アオバトのふしぎ～なぜ海水をのみにくるのだろう」

【内容紹介】“こまたん”は、大磯町高麗山周辺で野鳥観察を行っているグループ。大磯海岸の照ヶ崎に飛来するアオバトの調査をつづけている。15年以上に渡るアオバト調査から次々と未知であったアオバトの生活史が解き明かされてきた。照ヶ崎のアオバトはどこからやって来るのだろう。どうして海岸にやって来るのだろう。アオバトの住みかはどこにあるのだろう。次々と生まれるアオバトの謎を究明してきた“アオバト探検隊”の活動を紹介していただきます。

【日時】平成16年5月8日(土)17:00～19:30(16:30より受付)

【場所】生命の星・地球博物館1F講義室(小田原市入生田)

【交通】箱根登山鉄道(小田急線乗り入れ)「入生田駅」下車3分

【講演】17:00～18:00(1階西側講義室)

【お知らせ】

鷹取山・吉沢 自然観察会(第 48 回 市民探鳥会)

2004 年 4 月 29 日(木・祝日・みどりの日) 9 時 15 分から、14 時頃現地で解散、雨天中止

集合場所： バス停「生沢」9 時 平塚駅北口・地下道への階段付近 8 時 15 分

持ち物： お弁当と飲み物は忘れずに準備してください。

定例カウント調査

吉沢 & 土屋 2004 年 5 月 1 日(第一土曜日)

生沢・鷹取山 2004 年 5 月 8 日(第二土曜日)

午前 6 時に、高麗ハイツとなりの駐車場(青空市場)に集合。午前中に解散、雨天中止
(集合時間が変わり、1 時間早くなっていますのでご注意願います)

問い合わせ・連絡先

岩佐 昌夫 0463-55-6142 内山 規矩雄 0463-33-4322 金子 典芳 0463-32-5583

鳥 報

こまたんメンバーのフィールドでの観察記録から主なものをご紹介します。

レンジャク情報

3/17 土屋霊園付近 ヒレンジャク 67 羽、キレンジャク 2 羽

3/22 吉沢 ヒレンジャク 数羽、キツタの実を食べる これ以降の記録はありません(終認?)

その他の野鳥情報

フクロウ： 3/16 吉沢 1 羽、雑木林の木の陰から飛び出す

ウソ： 3/16 吉沢・日之宮山 3 羽(1 羽はアカウソ)、キブシの花をついばむ。

3/22 吉沢 2 羽、3/24 土屋 1 羽

マヒワ： 今冬は非常に多く、吉沢、鷹取山、土屋で数十羽の大きな群れが頻繁に見られている

オシドリ： 3/17 酒匂川(足柄橋の下) 150 羽(ほとんどが)、淵の水面・崖の岩場

ツバメ： 3/23 吉沢・松岩寺 1 羽(吉沢での初認)。4/1 土屋・遠藤原 5 羽(土屋での初認)

トラツグミ： 3/24 土屋・霊園駐車場 1 羽、植え込みから飛び出す

ノスリ： 3/24 土屋・谷戸 2 羽、1 羽が巣材(体の半分くらいの長さの枯れ枝)を運んでいた

カシラダカ： 3/24 土屋 8 羽、さえずりが聞かれた。3/30 吉沢・吉沢の池付近、さえずりが聞かれた

タヒバリ： 3/24、4/1、4/3 土屋・遠藤原、冬の間の群れがまったく見られなくなっていた

マガモ： 3/31 吉沢・吉沢の池 2 羽(1、 1)

サシバ： 4/3 土屋・谷戸 3 羽+(観察数は 6 羽)、初認

次回の定例探鳥会は 2004 年 5 月 9 日(日)です。午前 7 時 30 分 高来神社に集合。

緑鳩(アオバト) 第 206 号 / 4 月号 発行所:こまたん

斎藤 常實 0467-51-3543

岩佐 昌夫 0463-55-6142

こまたんホームページアドレス <http://www.komatan.jp> (アドレスが変更されました。移行・更新中)

日本野鳥の会神奈川支部ホームページ <http://www.mmj.jp.or.jp/wbsj-k/>